

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

Nice to meet you

大阪 LD センター 副所長 鈴木 周平 先生

関西では LD 対応の草分け的存在である大阪医科大学の LD センターを訪問してきました。1996年から LD 外来を始めていた大阪医科大学では学習面の支援を目的として LD センターを2001年に開設しました。JR 高槻駅から徒歩5分程度で子どもたちが描いた色鮮やかなセンターの建物が目に入ります。

大阪医科大学小児科ではじめに診察を受け、その上で医療以外の指導の必要な人たちに対して指導をするところです。小児科と連携を取りつつ診断から教育までを含んだ療育ができる専門機関です。医療関係者のほかに言語聴覚士、教育心理士、臨床心理士、作業療法士、LD 教育士、オプトメトリシャンなど多くの分野の専門家が子どもに応じた指導を組み立てて、グループ指導または個別の指導に当たります。当センターでは読み書き、言語の指導を始め主に学習に困難さを抱えている人たちを対象にしています。

ディスレクシアだけではなく、ほかにも困難さを抱えている場合もあります。学校や保護者も何が問題かわからな

いまま高学年になり、二次障害が引き起こされてから診療に送る場合も多くあり、早めに気づくことが大切だと先生はおっしゃいます。それでも日本語の特性からディスレクシアの発見と木目細やかな対応のためには就学前の5歳ごろ、小学校一年生の後半くらい、難しい漢字（読みがいろいろある、熟語、抽象概念）が出てくる4年生くらい、そして英語が出てくる中学校のころに困難さを見る必要があるということ意見が一致しました。マイルドな場合は



怠けてなんかない！

ディスレクシア - 読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。



10人の親子のインタビューを通してディスレクシア克服への道のりと生き方を模索する姿を紹介。ひと言ひと言に胸がしめつけられるが、希望をもてたときの晴れやかさは格別だ。専門機関での研究や教育・治療の現場も徹底取材。

※四六版
 ソフトカバー-256頁
 本体1,300円 (税別)

上野一彦氏
 (東京学芸大学副学長・
 日本LD学会会長)
すいせん!

品川裕香◎著

ADHDへの理解を深める絵本

オチツケ オチツケ こうた オチツケ



—こうたはADHD

ADHD (注意欠陥多動性障害) とよばれる子どもの本人の視点から分かっていてもコントロールできない本人の気持ち、認められないことなどを伝える絵本。

●B5/32頁/本体1,300円+税
 さとうしな お・作 みやもとただお・絵

岩崎書店

〒112-0005 東京都文京区水道1-9-2 TEL03(3812)9131
 (HP) <http://www.iwasakishoten.co.jp>

カナや山や川などの簡単な漢字では大きな困難さが理解されずにごさされてしまう場合があるからです。

週 120 人程度の軽度の発達障害を持つ子どもが通っていますが、週一回だけの指導では不十分で日ごろ子どもたちに対応をしている教師や保護者が理解をして一人一人の適切な対応ができるように教師の研究会へ出席をしたり、学校や教育委員会からの問い合わせにも応え、地域との連携を図っています。また、2003 年の春からは「母の会」を初め、子どもの状況を一番身近な保護者が家庭で理解できるように講座を開設しています。LD センターで作成した指導報告書を有効に活用する手立てと考えています。

鈴木先生は、脳科学とディスレクシアに関する研究が今後 3 年間でできると楽しみにしておられました。また、将

来的に LD センターとしてきちんとした建物ができるとのことで楽しみです。

鈴木先生は 2004 年 4 月に開催された理研脳科学総合センター・第 5 回オックスフォード神戸セミナー合同国際シンポジウム「日本語、中国語、英語におけるディスレクシア」の席上で外国の研究者に大変分かりやすく日本語の特性とディスレクシアに関して発表をなさりました。また、研究者によっては日本語では表音文字のカナと表意文字の漢字がありそのためほとんどディスレクシアは発現しないといわれている仮説を改め再検討を促す契機をいただきました。

Network

2004 年 10 月 28 日～ 11 月 8 日にアメリカに行き
さまざまな人との交流を深めて参りましたー藤堂

IDA

(International Dyslexia Association)
Annual Conference

フィラデルフィア

2004 年 11 月 3 日から 6 日

大統領選の真っ只中で「怠けてなんかない」の著者品川裕香さん、加藤醇子先生、千葉大学の山口先生、文部科学省の伊藤さんも日本から参加をして、エッジの会員でニューヨーク大学の大学院でディスレクシアの研究を始めた長谷川さんにも再会しました。ブラジル、フィリピン、台湾などからの参加もありました。これからは漢字圏の国々とのネットワークが大事だと実感しました。

メインテーマは「基礎研究から実践へ」。記憶の話が画期的だと加藤先生がおっしゃっていました。

ディスレクシアの英語教育の基礎となるオートン・ギリングハムの入門の 10 時間コースを受けました。英語の成り立ち、マルチセンソリーメソッド（多感覚を使った教育）、文法の教え方、ガラブルダ博士の講義、音声学など英語を体系的に習ったことのない藤堂にとっては新しく習うことばかりでした。ただ、英語の中でギリシャ語、ラテン語、フランス語を語源としたことが多くあり、またその語源を使った語彙力を伸ばす方法は私がヨーロッパにいたときに自然と身につけた方法で、ディスレクシアの息子にも知らないうちに日本語も英語もその方法を使って教えていたのだと気がつきました。

ディスレクシアの学生を多く受け入れている高校の見学があり、ちょうど大学の説明会も開催されていました。多くの大学がディスレクシアの学生の受け入れをしていること、入るときの配慮、入ってからからの配慮とサポートなどいろいろな情報を得ることができました。

夜のパーティーではディスレクシアで実業家のパーバラ・コーコランさんが表彰されました。パーバラさんが書

いたどのように成功したかの本にはお母さんの知恵がいっぱい入っています。(P 6)

PHP

(Parents Helping Parents)

10 月 29 日

サンフランシスコの牧野のみさんがご紹介くださりアメリカの西海岸でいろいろな障害を持つ保護者同士の互助会を訪れました。双子のお子さんが二人ともアスペルガーで二人とも自立をした方が日本人の障害を持つ子どもの保護者の会の世話をボランティアでなさっています。LD（アメリカでは LD の概念はディスレクシアから始まっています）のお子さんが多いとのことで、せっかく指導ができる牧野さんがサンフランシスコにいるのに日本語の指導がなかなかできないと嘆いていらっしゃいました。文部科学省も海外にいる邦人の教育の中でぜひ特別支援教育を視野に入れた施策をお願いしたいと思います。

ニューヨーク 日本人教会

10 月 31 日

ニューヨーク在住の内藤さんと長谷川さんが手配してくださり、ニューヨークの日本人教会でディスレクシアの話をする機会をいただきました。内藤さんはアメリカの教育事情に詳しく、在留邦人にいろいろなアドバイスをしています。日本でも私立学校の経営へのアドバイスなどもしている方です。いずれ、内藤さんにガイドしていただき、アメリカで独特な教育をしている現場などの視察旅行をしたいと考えています。

Personal Story No.6 Aさんのディスレクシアとつき合う方法

皆さんこんにちは。私は神奈川県に住む35歳のAです。工具販売の仕事をしています。年収は500万円弱ですが、家族三人幸せに暮らしています。34歳を過ぎてすぐに、発達性ディスレクシアと判りました。エッジさんから最初に原稿を頼まれた時、是非やってみたいと思う反面、私には皆さんのお役に立てるようなお話ができるかどうか不安でした。ただ今まで一日一日をがむしゃらに生きてきたという感じでしょうか。

16歳の頃自動車の整備工場に働いていました。通勤に使う事が目的で原付の免許の取得を考えました。社長にも勉強の為にまず免許を取りなさいと言われていたので、不安に思いましたが免許を取る決意をしました。中学を卒業した時点での読み書きの能力は、ひらがなとカタカナがかるうじて読める程度、漢字は小学校1、2年生の漢字ですら読み書きできなかつたからです。まず交差点や信号機、徐行といった字すら読めなかつたので、母に読みを教わることから始めました。文が全て読めたとしても、意味が解らない問題が随分あったので、問題集を何十回と合格点に達するまでとにかくやり続けました。一週間、ほぼ徹夜に近い状態で臨んだ一回目の試験は不合格。2、3、4、5、6度目も不合格。社長は自分のペースでゆっくりやりなさいと言ってくれましたが、私には免許が取れないのではと内心思ったくらいです。そんな時、二俣川運転免許試験場のそばに当日行われる試験と同じ問題をテストの前に予習させてくれるスクールがある事を知り合いから聞きました。勿論スクールに参加し、7度目の試験では46点で合格しました。後に普通車の免許もこれと同じような感じで取得することができました。

19歳の時に自動車工場を退社、今の会社に入社したのは22歳の時でした。それまで何度か読み書きの困難を克服しようとしたましたが、続かずに挫折の繰り返しでした。現在の会社に就職した時は、ほぼ16歳の頃と変わらない能力でした。今年の1月で早、入社13年になりました。

つらい事はいろいろありましたが、とにかく突っ走ってきたという感じでしょうか。今では周りの人と同じ能力の仕事をごこなせるまでになりました。この13年間を通じて感じた事は、一つの職種に必要な読み書きの能力はごく限られた僅かな物に過ぎないし、覚えたい文字に基づいた実体験の中から、私は字を覚えてきたという事です。

未だに本や新聞は普通の人のようには読めないし、いろいろな困難さをまだまだ抱えているので、最近では電子辞書を使い始めました。これが結構優れもので、読みの解らない漢字をペンで入力するだけで読みが出て来たり、字が解らない物は読みを入力すると漢字が出てきます。私にはとても使い易いと思います。メーカーはカシオ、型式はXD-470です。

最後に、このような機会を下さったエッジさん、私のディスレクシアの検査をして下さった筑波大学の宇野彰先生、済生会中央病院の春原則子先生、皆さん私の話を嫌な顔一つせず親身に聞いて下さいました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。…ディスレクシアやLDに、一つ何物にも勝る特効薬があると思います。それは、この社会からの理解ではないでしょうか。私自身、これから生まれてくる子供達の為に、この社会をより理解を得られる環境に変える努力をしたいと思います。

手書き文字認識機能を搭載したペンタッチタイプ。

50音配列キー <切替可能> JIS配列キー

エクサワード
XD-470

メーカー希望小売価格
¥20,000(税込¥21,000)

手書き文字認識機能

読みのわからない言葉や漢字※をそのまま入力して調べることができます。

※収録漢字のうち3,800字を認識可能。(第一水準漢字のすべてと第二水準漢字の一部)



国語辞典 三省堂 見出し語：約50,000語 語義：約60,000語 現代国語辞典	漢字辞典 収録数：約108,000語 (単漢字・熟語)	英和辞典 三省堂 見出し語：約47,500語 語義：約64,500語 ニューセンチュリー英和辞典	和英辞典 三省堂 見出し語：約31,000語 語義：約31,000語 新クラウン和英辞典
--	--	---	---

Aさんが、ご紹介下さった商品はこちらのものです。電子辞書に限らず、様々な機能がついている便利な機械が増えています。いろいろな道具を探してみると、助けになると思います。

●商品に関する、お問い合わせ先

カシオお客様相談室 03-5334-4828

特別支援教育に関する動き

2004年の暮れから2005年の初めにかけて、さまざまな動きがありました。EDGEとしても行政の動きに対応しつつ、よりよいサポートが出来る体制作りを行ってゆきます。

港区との協働

2004年9月に開始した港区との協働に関しては仕組みづくり検討委員会を4回開催いたしました。昨年度のボランティア講座を引き続き開催したテクノシップとEDGEはディスレクシアの啓発パンフレットを作成して講座を設け一般に広く特別支援教育を啓発することを目的として港区のパートナーズ基金の助成に発達障害にかかわる2つのNPOが協働で応募したものです。もうひとつの目的は港区における特別支援教育の推進に関する検討委員会を設け仕組みづくりを考えることでした。

港区からは保健福祉部、教育委員会に委員になっていただき、社会福祉協議会と明治学院大学の緒方教授にオブザーバーになっていただきました。

これまでの検討委員会で港区独自のNPOなどの社会的な資源を活用すること、一生を通してのことなので行政の縦割りの部署間の壁をできるだけなくす方向での仕組みづくりへ取り組んできました。

検討委員会では学校に不適合で引きこもりがちになってしまっているLD児への対応から、障害と診断がされなくても早期に対応ができる体制などのニーズが出されました。

また、急な制度の変更で対応を迫られる教員へのサポート、ボランティアの相談、保護者のケアなど軽度の発達障害を持つ子どもだけではなく幅広く対象を捕らえることを心がけました。一人一人の人が生まれてから保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等教育そして就労や社会の一員として生き活きと本来の能力を発揮しながら暮らせるように行政も民間も大学も地域もが一体となってそれぞれの役割をどのように果たして行けるのが課題です。ほかの地域でもいろいろな試みがなされていますが、行政とNPOが協働で特別支援教育の推進をするのは港区が初めてではないかと思います。いくつか画期的な提案も出されており、現在3月9日の発表会で披露する準備を進めているところです。

- 第1回 関係団体の現状と課題
- 第2回 8月20日ニーズ
- 第3回 10月7日ケーススタディー
- 第4回 10月18日せいがの森保育園訪問
- 第5回 12月9日ケーススタディー、仕組みの提案
- 第6回 1月5日まとめ
- 第7回 2月16日まとめ

最終報告3月9日に発表会をする予定です
麻布区民センター6時半から
第一部 「みんな違ってみんないい」
品川裕香さん（ノンフィクションライター）
第二部 検討委員会発表会
「これからの港区における特別支援教育」

中央教育審議会が特別支援教育に関する中間報告

12月1日には中央教育審議会が特別支援教育に関する中間報告を出しました。

三位一体の改革の嵐が吹き荒れ、教育の財政が地方に接管される中で特別支援教育がどのような方向に行くのかが大いに注目されましたが、中教審は特別支援教育の推進を図る中間報告を出しました。これまで、通常学級の中でまったく対応がなされていなかった軽度の発達障害を持つ児童生徒に対応することが謳われています。

ディスレクシアだけですと本当に目立たないため対応が遅れがちですが、より多くの方が理解をしてくださり、本来の能力が活かせるような対応をしてくださることを願っております。

http://www.mext.go.jp/b_menu/public/2004/04120103.htm

発達障害支援法

12月3日に発達障害支援法が通過しました。

この法案はこれまで障害者として認められずに対応が遅れてきた自閉症、ADHD、LDをはじめ軽度の発達障害を持つ人々を対象にしています。生まれてから義務教育の間だけではなく自立や就労までも視野に入れている点で画期的です。ただこの法律だけでは実効性がないのでこれからも各自治体の実効性のある施策に反映していただけるよう働きかけて行きたいと思います。

法案の通過を受けて(社)自閉症協会、全国LD親の会、NPO法人えじそんくらぶ、NPO法人EDGE、NPO法人アスペルデの会は尾辻厚生労働大臣と中山文部科学大臣それぞれに要望書を提出しました。また、当日厚生労働省で記者会見を開き、それぞれ声明文を発表いたしました。EDGEも軽度の発達障害の中でも一番目立たないディスレクシアへの対応を強く求めた声明を出しました。

<http://www.npo-edge.jp>

JDDnet 準備会

発達障害支援法が成立することによって軽度の発達障害のことをよりよく知っていただくことができるようになっただけではなく、福祉サービスを受けるだけではなく教育でもいろいろな対応がなされるようになることが謳われています。ディスレクシアを始め軽度の発達障害（障害かどうかは個人的にはまだ議論を残しますが）のサポートの法的な根拠ができやと1970年代の欧米に追いついたこととなります。

このことを受けて発達障害支援法と特別支援教育を推進してきた5団体は一般への理解の啓発と関連団体のネットワークを目的としてJDDnet（日本発達障害ネットワーク）を2005年中には発足すべく準備会を発足しました。

<http://www.autism.or.jp/jddnet/>

事務局 だより

2004年の10月から開始した、「みるみるわかる！英語塾」もスタートしてはや3ヶ月をこえ、無事にスタートと同じメンバーで新しい年も迎えることが出来ました。ゆっくりではありますが、生徒たちに変化が見られてきていることは嬉しい限りです。

そこで保護者と先生から寄せられたエピソードをご紹介します。

エピソード1

カード読みで疲れていたかも…とありましたので、「もし、何か家でおっしゃっていたりしたら、知らせてくださいということ、教室ではとてもよく頑張っていたということ」などを、伝えたところ…

「午前中、学芸会だったこともあり、“今日は疲れた～”と言っていました。本人は充実感を味わっているようでした。

私も授業の様子を聞いていて、最後の方は必死?!と言った感じをうけましたが、LDの子ども対象の授業の良さを再認識しました。

本人もがんばれば、上達する！と実感したのか今日のスイミングスクールでは、何時に無く意欲的で、ここのところ練習もあまりしていなかったのに、タイムが伸びました。」とおっしゃっていただきました。

エピソード2

「最近、家でも外でも、英語を見ると読むようになりました。今までは、そんなことはなかったのですが…」

読める！ということを実感して、楽しいですね。

彼女も、ゆっくり・じっくりですが…少しずつ、できるようになっているのを感じます。

この時に、お母様が、「学校の授業では、完全にお客さんになってしまっていますが、EDGEの英語教室では、参加型なので、普段は、1時間も集中できないのに、2時間の授業も、頑張れる」というようなこともおっしゃっていました。

EDGEで行なっている、「みるみるわかる！英語塾」は、オートン・ギリングハムの指導法をベースに2～4人のクラスで運営をしています。クラスにいらしている子どもたちのニーズはさまざまです。

そこで、先生たちは一人一人の生徒の強い部分・補わなければならない部分を考えながら、オートン・ギリングハムの指導法に加えて手作りの教材や課題を毎回用意して講座を進めています。好きな教材の種類はさまざまですが、それぞれに好きな教材を見つけたときは時間を忘れて取り組んでいて、その姿がとても印象的です。

子どもたちを事務局として見ていて感じるのは、クラスの中が打ち解けてきている部分もありますが、それ以上に教室に来ることが楽しみに感じているところ。カードを読む声も回を追うごとに大きくはきはきとして来ているのを感じます。それに何よりも、エピソードにもあるとおり、英語を勉強することをきっかけに他のさまざまなことにも自信を持って過ごしてくれているという事です。3月までの講座でどこまで子どもたちが伸びて行くのか今からとても楽しみです。(堀田)

みるみるわかる！英語塾

学校では教えてくれない
身に付く英語の学習方法を
丁寧に関わりやすく少人数で指導します。
中学校・高等学校のスタートラインで
『出来る』楽しみを味わいましょう。

A! NPO-EDGEがはじめる
「LD・ディスレクシア」向けの
英語塾 A?

『みるみるわかる！英語塾』の特徴

- 1 フォニックスを使った効果的な学習
オートン・ギリングハム (Orton-Gillingham) による、フォニックスの指導法は、読み・綴り・書きの習得について多感覚（視覚・聴覚・触覚・運動統合感覚）を使って行うアプローチです。
- 2 少人数でのわかりやすい指導
ひとりひとりの理解度にあわせて、きめの細かい指導をいたします。
発音や読みだけではなく、文法や文の構造も学習し学校での学習のサポートもいたします。
- 3 LD・ディスレクシアのお子さんも楽しく学習できます
EDGEが培ってきたディスレクシア（読み書き困難）のノウハウと、LD・ディスレクシア児に対する指導実績を持った先生が指導にあたります。

詳しくは、ホームページ

(<http://www.npo-edge.jp>) をご覧下さい



新着本を 紹介します



「大きなケーキは人にゆずろう」

お金持ちになるための「母の教訓」

バーバラ・コーコラン著

大野晶子=訳

発行ソニーマガジンス

定価 1470円

◆欧米ではディスレクシアで大成功を収めている起業家が数多くいる。彼らは小学校でひどい思いをしながらも、自分の強みである想像力や普通とは一味もふた味も違う発想力をもって前向きなエネルギーに換え成功している。その裏にはきっかけとなる事柄や支えとなる人の存在が必ずある。

◆アメリカで出会ったコーコランさんもその1人で「母の教訓24章」の中でくまなく成功の秘訣を披露している。ディスレクシアについての記述は第二章で字が読めずに学校で先生にいたぶられた彼女に向かってお母さんは「心配しなさんな。あんたにはすばらしい想像力があるんだからどんな穴だって埋められるわよ」と言って励ました、とある。

◆章の終わりに『賢い母はそんなわたしの才能を見抜き、それを際立たせてくれた。そうすることで、わたしの「欠点」をすばらしいパワーに変えてくれたのだ。』

この本の特筆すべき点はビジネスマン向けであるところである。長所と短所は全て表裏一体だと思う。積極的は押しが強いになるかもしれないし、消極的は慎重だと言えば長所になる。一人一人のもった特長は伸ばし方によって良くなり悪くなりえるがコーコランさんの場合はお母さんの知恵のお陰で良いほうに開花したと言えるだろう。(藤堂)



「学習者の多様なニーズと教育政策

—LD・ADHD・高機能自閉症への特別支援教育—

柘植 雅義 著

発行 勁草書房

定価 2,730円

◆特別支援教育調査官である筆者が、2004年秋に出版した本が本書です。

日本における障害児教育の歴史、特別支援教育のガイドラインが出来上がるまでの過程などが判りやすくまとまっていて、全体を理解するために非常に参考となると思います。

特に特別支援教育コーディネーターの役割など、これからの特別支援教育のキーポイントになる考え方が理解できます。

◆本書では今まで自治体が行ってきた特別支援教育に対する試みが多く紹介されています。これから特別支援教育に取り組む場合、何かしらの参考を提示してくれるものといえます。

また、巻末の諸外国の動向など関連資料は、日本語でここまでまとまっているものになかったと思います。

◆特別支援教育について学びたい方はもちろん、地域の取り組みと本書に提示されている事例を比較することにより、よりよい体制を構築してゆくために利用することも大切だと思います。(堀田)



◆好評！啓発小冊子「キミはキミのままでいい」を配布しています◆

先月発行しました、啓発小冊子「キミはキミのままでいい」様々なところから、良い評判を頂きまして作成した側としても喜ばしい限りです。

学校の先生などにディスレクシアについての説明をするときなどに有効に使っていただければと思います。

EDGEのホームページから無料でダウンロードできるほか、印刷したものにつきましては、1部（印刷代として）50円+送料でお届けします。

◆全国LD親の会より小冊子「LD・ADHD・高機能自閉症とは？」が届きました。

48ページにわたって、LD・ADHD・高機能自閉症についてのわかりやすい解説、保護者や周囲の対応の仕方、関連資料が掲載されています。ご希望の方は、EDGE事務局までお問い合わせください。

◆2005年助成金

大和日英基金から3000ポンド、グレイト・ブリテン・ササカワから50万円の助成が決定いたしました。それぞれ3月と7月に英国のディスレクシア関係者との意見交換、調査に当て、今後のEDGEの事業に活用させていただきます。

◆全国LD親の会より小冊子「LD・ADHD・高機能自閉症とは？」が届きました。

48ページにわたって、LD・ADHD・高機能自閉症についてのわかりやすい解説、保護者や周囲の対応の仕方、関連資料が掲載されています。ご希望の方は、EDGE事務局までお問い合わせください。

EDGEがメディアに取り上げられました

2004年9月15日	読売新聞科学面
2004年9月19日	西日本新聞 子供・学校・地域
2004年11月1日号	ASAHIパソコン バリアフリー欄
2004年12月6日	朝日新聞朝刊 生活面
2005年1月25日号	クロワッサン (日常生活の中の差別)

2004年 EDGE活動報告

2月7日	講演講師 品川区安心センター
2月22日	総会 英国旅行報告会
4月18日(日) ～20日(火)	神戸インスティテュート「ディスレクシア国際会議」
7月24日(土)	臨時総会 意見交換会「港区における特別支援教育のサポートについて考える」
8月24日(火)	学校で出来るボランティア講座
8月26日(木)	第4回発達性ディスレクシア研究会
8月27日(金) ～29日	第13回日本LD学会 (成蹊大学にて)
9月9日(木)	NPO事業サポートセンターより研修生 (6名受け入れ)
10月16日(土)	「みるみるわかる英語塾」開始
10月31日(日)	3世代交流子どもNPOメッセ参加
11月10日(水)	講演会 川崎市立犬蔵小学校にて
11月2日(火) ～6日(土)	International Dyslexia Association In Philadelphia
11月12日(金) ～23日(火)	マッケンジー・ソープ来日絵画展
11月2日、19日、 12月22日	次世代育成事業推進協議会
12月4日(土)	LD疑似体験講座 品川区立大原小学校にて
12月5日(日)	EDGEオープンデー

2005年 活動予定

1月19日(水)	文部科学省にて講演
2月	港区内での特別支援教育に関する啓発セミナー3回 (民生委員・小学校PTA連合など)
2月20日(日)	EDGE総会
3月9日(水)	港区特別支援教育推進事業報告会&シンポジウム
3月14日(月) ～17日(木)	訪英 (大和日英基金)
7月	キプロス 多文化下、多言語下のディスレクシアに関する会議
8月	訪英・スウェーデン (GBササカワ、スカンジナビア・ササカワ)
10月	愛をはこぶ人キャンペーンソープ氏来日ワークショップ、絵画展

港区パートナーズ基金助成事業 発表会

これからの港区における特別支援教育

今、教育と子育ての環境は大きく変わろうとしています。脳科学と教育についての講演に引き続き、港区の行政とNPOが協働して一人一人のニーズに合った教育をしていくにはどのような仕組みが望ましいのかを検討してきた内容を発表します。

と き 平成17年3月9日 (水曜) 午後6時30分～9時00分
と ころ 麻布区民センター

内 容 一部 「みんな違ってみんないい」
品川 裕香
(ノンフィクションライター)
二部 「港区の特別支援教育仕組み作り検討委員会」
発表会
港区教育委員会、港区保健福祉部、NPO法人EDGE、NPO法人テクノシップ

定 員 250人 (申し込み先着順)
費 用 1,000円
共 催 NPO法人EDGE・NPO法人テクノシップ、港区、
港区教育委員会、
後 援 社会福祉協議会、キスポーツ財団、愛をはこぶ人キ
ャンペーン、LD学会 (予定)
申し込み 住所、氏名、年齢、職業、応募理由をお書きの上
下記までお送りください
106-0032 東京都港区六本木4-7-14
みなとNPOハウス4F
NPO法人EDGE 電 話 : 5413-3356
ファックス : 5413-3358
メー ル : info@npo-edge.jp



EDGEで販売しています
「怠けてなんかない!!」
1,365円 (税込)
品川裕香著 岩崎書店

Report from the EDGE - 第7号 -
2005年2月1日発行
発行者 NPO法人EDGE
発行責任者 藤堂栄子 東京都港区六本木4-7-14
みなとNPOハウス4F
Tel.03-5413-3356 Fax.:03-5413-3358
編集 NPO法人EDGE事務局
印刷 株式会社 信英堂
http://www.npo-edge.jp
email:info@npo-edge.jp